

「梅ワー」でウェルビーイングな地域活性と関係人口創出

和歌山県みなべ町 × 一般社団法人 日本ウェルビーイング推進協議会

取組概要

「梅収穫ワーケーション」（通称:「梅ワー」）を主宰する一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会がみなべ町に協力し、2022年6月、2023年5-7月に梅収穫期の人手不足解消の為、「梅収穫ワーケーション」を実施した。結果的に人手不足解消はもちろん、更には受け入れ農家と参加者双方のウェルビーイング向上、みなべ町の関係人口増加にもつながった。経済効果は1年目が約900万円、2年目が約2,300万円。



みなべ町ゆるキャラのブララと農家さん宅で



ボールプールのように溜まる収穫期の南高梅

基本情報

代表地方公共団体等	和歌山県みなべ町
代表民間団体等	一般社団法人 日本ウェルビーイング推進協議会
他の連携団体等	梅の駅みなべ川村、みなべ町商工会青年部、みなべ観光協会、みなべおかみ元気会、Team WAA!
カテゴリ	地域振興・交流／農林水産業振興／文化・コミュニティ対策
事業費	
目指すSDGsゴール	
事業化までの期間	2021年12月アイデア想起 2022年1-5月準備 6月実施 2023年5-7月2年目実施

取組内容



受け入れ梅農家と梅ワー運営メンバー



梅ワーTシャツを着た参加者と梅農家

この取組で解決した課題	みなべ町では、人口減少・流出等による梅農家の収穫時期の人手不足が課題で、時給を上げて求人募集を出しても人手が集まらない状況であった。梅ワーは、梅農家は無償で収穫期に手伝ってもらえ、参加者は梅収穫作業を手伝うことで、非日常体験によりウェルビーイングが向上するという双方にメリットがある取り組みであり、梅農家の収穫繁忙期の人手不足解消という地域課題の解決にとどまらず、参加者ばかりが梅農家のウェルビーイング向上、みなべ町の関係人口増加にもつながった。収穫時期のみならず年間を通じてお世話になった梅農家を訪ねてくる参加者が増加している。□
解決に向けた手法	全国で真のワーケーション推進を行う一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会が、代表理事島田の主宰するコミュニティであるTeam WAA!メンバーと共に約5ヶ月をかけて「梅収穫ワーケーション」を企画。梅ワー運営メンバーにはみなべ町の未来を考える若手の住民・事業者の4名（通称：みなべ仲間）を含み、梅収穫作業を実行できる梅農家の確定、企画の告知、参加者の集客、梅農家とのマッチングを行った。初年度の2022年は6月の30日間に11件の梅農家と梅ワーを展開し、参加人数は123人（のべ240人）、2年目の2023年は5/1-7/9の70日間に19件の梅農家が参画し、参加人数は238人（のべ382人）の実績。毎年収穫期には労働力不足からくる疲労感と悲壮感を漂わせていた梅農家だったが、梅ワー参加者と作業や談笑する様子を見た近隣農家から、「自分たちもお願いしたい」とみなべ町役場に問い合わせが相次いだ。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会、みなべ町民有志が梅ワーの告知、参加者募集、農家とのマッチングを行い、みなべ町役場うめ課が地元農家からの問い合わせと実施後のアンケートの実施を行った。
地域関係者との連携方法	梅ワーは、参加者に作業させてもらうことを受け入れてくださる梅農家の存在が必須の事業のため、梅ワーについて理解し、そのメリットを伝えることのできる地域関係者が非常に大切だったため、みなべ町の梅加工販売事業者であるみなべ仲間から農家さんに受け入れの声をかけて行っていただいた。またみなべ町で代表島田由香が講演会を行うことで、みなべ町民にも本事業への理解を深めていただいた。
資金調達方法	梅ワー運営メンバーの自己資金、参加者の自己資金、みなべ町役場からの協力金（100万円）
資金調達方法の補足	梅ワーは関わる人すべてが自己資金で対応するという方針で運営しているため、モチベーションを高めるためのコミュニケーションを工夫している。参加者の声や感想も強力だが、実際に体感することが直接の理解につながるため、みなべ町役場うめ課の職員が運営チームに参加することにより梅ワーへの理解を深めた結果、協力金をいただけるに至った。
事業推進上の課題・工夫	<ul style="list-style-type: none">・アイデアを思いついたところからみなべ町住民であるみなべ仲間と一緒に動き、地元とよそ者が連携した「民」からのスタートであったことは大きいと思う。・梅ワーは梅農家の協力なしでは実現できないため、みなべ仲間が梅農家に声をかけて一軒一軒丁寧に説明し理解を得たことが成功の要因の一つ。・運営をリードする運営メンバー全員がよそ者。最も大事にしたのは「（参加者を含む）私たちはお客様じゃない」「よそ者が意図せずとった言動が地元の皆さんの大事にしている風習や伝統、習慣に影響を与えるということを理解しておくこと」「梅農家・住民に迷惑をかけること」「どんな時でも“安全”でウェルビーイング最優先」を合言葉に実施した。・参加者は「お客様」ではなく、「一次産業を手伝いたい人」であり、1人分の力になれなくても、0.5人力でもお役に立って帰ってくる！と合言葉に加えて伝え続け、理解した方に参加していただいた。・梅ワー実施期間は毎日休まずFacebookライブで、その日に梅ワーに参加した方の生の声を配信することで、これから参加する方に梅ワーの魅力や情報提供を行いながら、不安や疑問点を解消した。

担当者のコメント

最初は、「代表の島田がやりたいならやろう」という気持ちで始めた梅収穫ワーケーション。当初の目的である梅収穫時期の人手不足解消のみならず、梅農家、参加者のウェルビーイングが想像を超えるレベルで向上したことから、本事業を行うことで幸せな人が増える、と実感した。実際に収穫作業を行うと、梅の実を拾い続けることに没入する。普段都心では、「あれも気になる、これも気になる状態」で仕事している事が多く、梅収穫の没入により「空になる状態」を経験すると、なんとも言えない清々しさを実感できた。「自分の農業人生の中で一番楽しい6月だった」この言葉を初年度に受け入れて下さった農家さんから聞いた時、梅ワーの意義と意味を痛感することができ、みなべ町への想いがさらに強くなった。本事業を行うことで嬉しかったことは、梅農家さんと毎朝顔を合わせて一緒に農作業を行うことで、道で出逢うと「おー」と手を振り合う拡張家族のような関係になったことである。みなべ町から地元へ戻っても、「みなべ町の梅や南高梅の梅干しを選んで買っています！」という参加者が多数いることで、この関係性を多くの梅ワー参加者が紡いでいることがわかる。



梅ワー代表島田由香とリーダー 澁谷まりえ

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項	本取り組みは、梅農家の労働力不足という地域課題を、梅農家・梅加工事業者と日本ウェルビーイング推進協議会で、都市部の関係人口創出により課題解決し、持続可能な農山漁村を目標に、地域も都市部もウェルビーイングがあがる「梅収穫×ワーケーション」事業としてスタート。この発案に、みなべ町やみなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会が賛同・共創し、官と地域・民間により、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」や産地、地域の取組を都市部に発信・交流する機会を創出した。結果、関係人口の増加ならびに、関わる人の全体のウェルビーイングが向上し地域活性の一助となった。また、働きがい溢れるなど、生産性の向上にも良い影響を与え、持続可能な農業・地域と世界農業遺産という梅システムによる環境保全づくりにつながっている。更には、梅収穫期を過ぎても、官と地域・民間の一次産業の現状や課題への取組について連携し協働活動することで新たなアイデアを考え、みなべ町の魅力発見や継続性に向けて、持続可能なまちづくりに必要な課題解決に向けた意見交換を行うアクション（みなべSDGsアクション）がスタートしている。2023年には、梅ワーに共感したコシノジュンコさんが「WAKAYAMA MINABE」と描かれた「梅ワーTシャツ」をデザイン、地域と都市とのONE TEAM感が増し、これまで話したことがなかった梅農家さん同士や、梅農家と梅加工販売業者、製炭士、森林組合、商店街のおかみ元気会など、都市生活者と住民のみなさんとの交流が深まり、連携することで解決できる地域課題もあり、新たなプロジェクトが生まれた。「一次産業×ワーケーション」という本取り組みにヒントを得た新たな関係人口創出の取り組みである「TUNAGUプロジェクト」は2023年は4地域、2024年は6地域に展開予定である。
--------------	---